

江口 直光 (Naoaki EGUCHI)

学位： 修士（学術）

略歴：

東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了

東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学（単位取得退学）

専門分野： ドイツ語・ドイツ文化研究

研究課題：

1. リヒャルト・ワーグナーの音楽劇
2. ドイツ・オペラ（音楽劇）
3. ヴァイマル期ドイツ映画

【著書】

- ・『ワーグナー事典』（共著，東京書籍，2002. 3）
- ・『アプファルト〈ノイ〉— スキットで学ぶドイツ語』（共著，三修社，2015. 2）
- ・『ワーグナー— シュンポシオン 2017』（共著，アルテスパブリッシング，2017. 7）
- ・『知ってほしい国ドイツ』（共著，高文研，2017. 9）

【翻訳】

- ・バリー・ミリントン編著『ヴァーグナー大事典』（共訳，平凡社，1999. 3）
- ・クリスティアン・マルティン・シュミット著『ヨハネス・ブラームスとその時代』（単訳，西村書店，2017. 11）

【論文】

- ・„Kandinskys Idee der Kunstsynthese und seine Wagner-Rezeption“ („Medien und Rhetorik: Grenzgänge der Literaturwissenschaft. Beiträge der Tateshina-Symposien 2000 und 2001, herausgegeben im Auftrag der Japanischen Gesellschaft für Germanistik von Tetsuro Kaji u. a.“, Iudicium-Verlag, 2003)
- ・「愛と権力のアンチノミー — 《ニーベルングの指環》に関する一考察 —」（愛知文教大学学術委員会編集・発行『愛知文教大学論叢』第13巻，2010. 11）
- ・「ジャック・オッフェンバックの《地獄のオルフェ》と《美しいエレーヌ》 — 哄笑から陶酔へ —」（愛知文教大学学術委員会編集・発行『愛知文教大学論叢』第17巻，2014. 11）
- ・「映画『ニーベルンゲン』第1部におけるジークフリート像再考」（愛知文教大学国際文化学会編集・発行『愛知文教大学比較文化研究』第14号，2016. 11）
- ・「映画『ニーベルンゲン』とワーグナー」（『ワーグナー— シュンポシオン 2018』アルテスパブリッシング，2018. 7）

【その他】

- ・小牧市文化振興推進会議委員（2013. 7～2017. 6）
- ・日本ワーグナー協会主催リヒャルト・ワーグナー生誕200年記念懸賞論文審査委員（審査委員会— 於：国際文化会館，2013. 7）
- ・第12回日本独文学会賞ドイツ語部門選考委員（選考委員会— 於：関西大学，2014. 10）
- ・「ドレミとABC」（愛知文教大学公開講座，於：愛知文教大学国際交流会館，2016. 4）

【研究テーマ】

オペラ（音楽劇）および映画を中心とする 19 世紀～20 世紀前半のドイツ文化とりわけリヒャルト・ワーグナー（1813 - 1883）の音楽劇およびヴァイマル期ドイツ映画を中心に研究しています。近年はとくにヴァイマル期ドイツ映画における映像と音（音楽）の相関関係、および同映画に対するワーグナーをはじめとするオペラ（音楽劇）の影響に関心を抱いています。そのほか、初級用ドイツ語教科書の作成にも継続的に携わってきました。